平成 19 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 平成 19 年 7 月 5 日作成
点検日 平成 19 年 7 月 5 日作成

事務事業名	夏休み子ども講座実施事業（合志）	☐ マニフェスト関連	☑ 全庁横断課題関連
政策名	総合計画体系 04 みんな元気で笑顔あふれるまちづくり	所属部 教育委員会	所属課 生涯学習課
施策名	21 生涯学習の推進	所属係 図書館班	課長名 野本 立一
基本事業名	78 学習やスポーツへの参加機会の提供	担当者名 中山清美	電話番号 248-5754 （内線） 1540
予算科目	会計 01 款 1 項 05 目 08 事業	法令根拠	図書館法第3条（図書館奉仕）合志市立図書館条例第5条
事業期間	☐ 単年度のみ ☑ 単年度繰返 （開始年度 平成13 年度 ～）	☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 （ 年度 ～ 年度 ）	

事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

(事業の内容)
夏休み中に休館日の図書館を利用して開催する。参加者は持ち寄った課題に対し図書館司書から各々の課題解決のために図書館資料活用方法を学ぶ。図書館司書5名は、一人あたり5・6名程の指導に当たる。
(業務の内容)
合志市立小・中学校に対し参加者募集のチラシ作成及び配布。申込受付・指導案作成・配布参考資料作製。
(予算の内訳)
報酬（非常勤職員の手当）、需用費（消耗品費）

全体計画（期間限定複数年度のみ） （単位；千円）

総投入量			
事業費	財源内訳	国庫支出金	
		都道府県支出金	
		地方債	
		その他	
		一般財源	
	事業費計 (A)		0
人件費	正規職員従事人数		
	延べ業務時間		
	人件費計 (B)		0
トータルコスト(A)+(B)			0

1 現状把握の部（DO）

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）

18年度実績（18年度に行った主な活動）
8月の図書館休館日に市内の中学生と小学5・6年生を対象として開催した。

19年度計画（19年度に計画している主な活動）
前年度と同じ

⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア	開催回数	回
イ	参加募集人数	人
ウ		

② 対象（誰、何を対象にしているのか）＊人や自然資源等
合志市内の小学校5・6年生と中学生

⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア	実際参加した児童生徒数	人
イ		
ウ		

③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）
対象者が、図書館資料を使って、自分自身で的確な情報を収集し判断する方法を身につけるようにする。

⑦ 成果指標（対象における意図の達成度を表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア	募集した人数に対する参加者の割合	%
イ		
ウ		

④ 結果（どんな結果に結び付けるのか）
図書館資料を活用し、生涯にわたる生きる力を身につけることが出来るようにする。

⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア	学習ヤスポーツに親しむ機会があると思う小・中学生の割合	%
イ		
ウ		

(2) 総事業費・指標等の推移

区分		単位	16年度（実績）	17年度（実績）	18年度（実績）	19年度（見込）	20年度（目標）	21年度（目標）	22 年度（最終目標）
投入量 事業費 財源内訳	国庫支出金	千円							
	都道府県支出金	千円							
	地方債	千円							
	その他	千円							
	一般財源	千円			35	35	35	35	35
	事業費計 (A)	千円	0	0	35	35	35	35	35
人件費	正規職員従事人数	人			2	2	2	2	2
	延べ業務時間	時間			16	16	16	16	16
	人件費計 (B)	千円	0	0	64	64	64	64	64
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	99	99	99	99	99
活動指標	ア	回			1	1	1	1	1
	イ	人			30	30	35	40	40
	ウ								
対象指標	ア	人			9	15	18	24	28
	イ								
	ウ								
成果指標	ア	%			30	50	60	60	70
	イ								
	ウ								
上位成果指標	ア	%							
	イ								
	ウ								

合志市

事務事業名	夏休み子ども講座実施事業（合志）	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

小中学校において、調べ学習が開始されたので平成13年度に図書館資料を使った調べ方の基礎指導を夏休みに実施した。

② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？

夏休みの宿題として調べ学習が出されたときは参加者が多い。対象者である子どもたちの学校行事や地域の行事等に左右される。

③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？

夏休みは、対象者である子どもたちの家庭や地域での予定が多いので連絡を密にし、子どもたちが参加しやすい状況で実施することが重要である。
生涯を支える基礎を成す事業であるので是非続けて欲しいという意見がある。

2 評価の部（SEE）＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 結びついている ⇒【理由】 情報が溢れる現代の社会情勢において、自分自身で的確な情報を収集し判断する力をつけることは、生涯にわたる生きる力を身につける基礎になる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 妥当である ⇒【理由】 その成長期において図書館を利用して調べ学習の基礎を身につけることは、将来の合志市を豊かにすることに繋がる。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 適切である ⇒【理由】 対象・意図ともに適切である。
有効性評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☑ 向上余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 市立小中学校との連携を密にとり、学校や地域の行事を把握、開催日を設定し参加者が増加するようにする。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 影響有 ⇒【その内容】 調べ方を指導するのは、図書館の重要な役割の一つである。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには，この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある （具体的な手段，事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似の目的（対象と意図）をもつ事業は、他にない。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費は特にかかっていない。
	⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 削減余地がない ⇒【理由】 講師が図書館司書であるため、人件費は別途かかっていない。
公平性評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 公平・公正である ⇒【理由】 対象者は、合志市内の小学校5・6年生と中学生であり、『広報こうし』及び合志市立小中学校へのチラシ配布により周知している。

事務事業名	夏休み子ども講座実施事業（合志）	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課

3　評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）（PLAN）

(1) 1次評価者としての評価結果

① 目的妥当性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
② 有効性	☐ 適切	☑ 見直し余地あり
③ 効率性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
④ 公平性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括（振り返り、反省点）

有効性については、市立小中学校との連携をとり、行事を把握、開催日を設定し参加者が増加するようする。

(3) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止　☐ 休止　☐ 目的再設定　☐ 事業統廃合・連携　☑ 事業のやり方改善（有効性改善）
☐ 事業のやり方改善（効率性改善）　☐ 事業のやり方改善（公平性改善）
☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

市立小中学校との連携を密にとり、可能な限り行事を把握、開催日を設定し参加者が増加するよう改善する。

(4) 改革・改善による期待成果（廃止・休止の場合は記入不要）

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革，改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策

・図書館としては、基本的役割の事業であるが、有効性の周知が行き届いていない。
・小中学校との連携を密にとることはもとより、学校の教師に図書館資料を用いた調べ学習の有効性を理解してもらう必要がある。

4　事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

①記述水準（1次評価の記述内容を読んだ段階で選択）
☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☐ 記述は十分なされている

②評価の客観性水準（2次評価を行った後に総合的に判断して選択）
☐ 客観性を欠いており評価が偏っている（事務事業の問題点、課題が認識されてない）
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☐ 客観的な評価となっている（事務事業の問題点、課題が認識されている）

(2) 2次評価者としての評価結果

① 目的妥当性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり
② 有効性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり
③ 効率性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり
④ 公平性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止　☐ 休止　☐ 目的再設定　☐ 事業統廃合・連携　☐ 事業のやり方改善（有効性改善）
☐ 事業のやり方改善（効率性改善）　☐ 事業のやり方改善（公平性改善）
☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

(5) 改革・改善による期待成果（廃止・休止の場合は記入不要）

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項

合志市